

平成 29 年度 第 1 回山科まちづくり会議
グループ別討議まとめ

【全般】

- 客観指標に目標が設定されておらず、各指標の達成度がわからない。
- 実現しようとする目標と、実施している取組との関連性がわかりにくい。
- 学区単位で数値を把握できる資料があった方がよい。

【I 環境を守り継ぐ】

＜評価方法について＞

- ゴミの一斉清掃や、公園愛護会による清掃、参加人数を評価指標としているが妥当なのか。回収したゴミの量や、全公園における清掃が行われている率を指標とすべきではないか。
- 自動車保有台数は横ばいで参考にならない。環境への影響ということ言うなら、むしろ電気自動車の普及度や乗車時間などを指標とすべきではないか。

＜課題や改善策について＞

- 様々な取組を実施しているが、それぞれの認知度が極めて低い。もっと広報を強化すべきだ。
- 自家用車の利用が環境への負荷を高めるというなら、公共交通の充実をはかるべきだ。例えば、バスの本数や路線の見直しも指標にいれるべき。
⇒ 公共交通に投資する予算をタクシー券にして区民に配布してはどうか。

【Ⅱ まちの魅力・観光を磨く】

（１）まちの魅力を高める観光振興の取組

- 山科の観光資源は点として散在（毘沙門堂の紅葉・桜、花山天文台など）し、面になっていない。面になりにくい状況でもある。未だに山科を訪れてもらえるほど、魅力が高まっていない。観光案内の地図でも山科の情報は別枠で掲載されてしまう。
- 面としての総合力を高める必要があり、そのための「観光ルート」が重要。「おいしい食べ物」や「写真に撮りたい風景」が観光地を選ぶ基準となるため、それらを観光ルートで提案できると良い。
- 観光振興を牽引していく観光業者が必要。京都市内中心部に「勝つ」くらいの気概を持つことが必要であり、そのためには何か一点突破できる強いコンテンツが必要だ。
- 観光振興を図るためには、住民の歴史に対する意識を高める大事だ。

（２）観光基盤の整備

- ホテル等も増えていないし、飲食店もあまり増えていない。
- 飲食店の店舗数は横ばいだが、性質が変わってきている。以前は何でも食べられる店もあったが、近頃はラーメン屋や居酒屋、焼肉屋など、若者向きの専門店が増え、年配の方が好む店が減ってきた。
- 観光客の主流と言われる 60 代女性も食事を大事にし、和食や弁当を好む。
- 琵琶湖通船の本格運航を活用するために、売店の設置などの工夫が必要。

（３）特産物・農業

- 物販は山科区のものだけでなく、他の行政区のものも併せて売の方がよい。山科ブランドに拘らなくてもいいのではないかな。（例：井筒八ツ橋本舗追分店）
- 頑張っている若手農家がいる。区のふれあいまつりなど、イベントに参加させてはどうか。（農産物は旬の時期もあるので、その点は留意が必要）
- 収穫体験や農業指導を行っている農園もある。

（４）山科の魅力の発信

- 観光マップを作成しているが、食事処が掲載されていない。
- スマホ等の ICT ツールの活用や、口コミによる宣伝が重要だ。
- 留学生寮に住む外国人に宣伝し、海外に情報発信をしてもらったらどうか。

（５）文化・スポーツ

- スポーツ施設の利用件数は横ばいだが、区民の実感「スポーツを楽しむ機会が充実している」とはいい難い。利用されているが、利用者が限られているように思う。
- 高齢化し、楽しみたい文化・スポーツの内容も変わってくるように思う。

【Ⅲ 交通・都市基盤を強化する】

（１）道路を快適にする

① 幹線道路の交通対策

- ・ 稲荷山トンネルが無料化される予定だが，利用が増える半面，新十条通が込み合い，区内の幹線道路が麻痺するのではないかと心配だ。
- ・ 幹線道路が少なく生活道路が多い。東西は動きやすいが南北に動きにくい。

② 安全で快適な道路空間の整備

- ・ 自転車の移動が便利。山科川の遊歩道など走りやすい道もある。他方，自転車のマナーが悪く左側通行が徹底されないので危険を感じる。
- ・ 生活道路は狭くて，道路案内表示もなく道に迷いやすい。
- ・ 幹線道路は「車専用」，細い生活道路は「車禁止」でもいいのでは。
 - ⇒ カーブミラーが設置されると安全性が高まるのではないかな。
 - ⇒ 自転車用の一旦停止を呼びかける標識や表示（「自転車も止まれ」「小さい矢羽根表示」など）を設けてはどうか。

③ 山科を楽しめる歩行者ネットワークの整備

- ・ 歩道が車道（雨水溝）側に傾斜しており，車椅子を押すのに大変だ。
- ・ 歩道が車道より一段高いほうが，子どもには安全ではないか。
 - ⇒ 歩道と車道の色分け，ガードレール等で識別させる方法はある。

（２）交通環境を便利にする

① 公共交通ネットワークの充実

- ・ 高速道路上のバス停が廃止になったが，旅行者を誘客するためには復活させたほうが良い。
- ・ 幹線道路沿い以外の交通環境が不便（バスの本数 3 本／1 時間）。特に山科の南部地域は交通手段が乏しく“陸の孤島”のような状況だ。
- ・ 循環バスは，同じ方面で巡回するため，バス停によっては遠回りになる。
- ・ 病院行きの無料バスを交通手段としている人もいる。

② パークアンドライド／サイクルライドの促進

- ・ 自転車は便利だが高齢者には向いていない。
- ・ 自転車には「待たない，早い，小回りがきく」というメリットがある。
- ・ 放置自転車がスピーディーに撤去されており数が減少している。一方，自転車の不法投棄も良く見かける。

（３）都市環境を充実させる

① 災害に強い都市構造の形成

雨水対策が進み，地下貯水池が２箇所（山科三条，五条）設置された。

② 魅力ある拠点づくり

- ・ 地下鉄駅と観光地を結ぶ道案内が乏しく，目的地に辿り着きにくい。
- ・ 観光地までのルートが生活道路になっていることが多く道順が余計にわかりにくい。

⇒ 山科区公式アプリのルート検索機能を活用してはどうか。そのうえでアプリの周知も必要だ。

⇒ 外国人観光客向けに「山科アプリ」を一部英語対応にし，観光客へアピールしてはどうか。

⇒ 地下鉄駅から観光地までのバスが不便だ。レンタサイクル（電動自転車）を活用できないか。

【Ⅳ－① 保健・福祉・子育て支援（子育て・青少年）】

＜進ちょく・達成評価について＞

（１）客観指標について

【客観指標 1-1】

1歳6箇月検査を受けていない家庭（子ども）が気になりだ。一番困っている家庭の状況が把握できていないのではないかな。

【客観指標 1-2】

保育園や幼稚園に通園していない子どもの数について、アンケートは実施しているが、任意回答のため正確に把握できていない。

【客観指標 1-4】

- ・ 虐待通報から相談対応につながるケースが増えており、その内容も複雑化している。
- ・ 相談後にきっちりと支援につながっているかが重要。行政の担当者が1人で何人のケースを担当しているのかも把握した方がいい。
- ・ 相談件数が増えたことをどう評価するか。様々な捉え方ができるが、関係者間で状況を分析し、相談者の状況を改善につなげていく努力が必要だ。

【客観指標 1-5】

- ・ 交番での駐在やパトロールの頻度が増えたこともあり、少年犯罪検挙人員が大きく減っている。
- ・ 学校では力でおさえこむ指導ではなく、子どもに自己の行為を振り返らせるなどの指導へと変化してきている。
- ・ 警察と小・中学校、市役所等との連携が深まっている。

【その他】

広報に関する指標もあった方がよい。

（２）区民アンケートについて

- 子育て関連の実感が全般的に良くない。
- 「働きやすい就業環境づくり」は、どの主体がリードして進めるべきすべきテーマなのか。「山科“きずな”支援事業（区民提案型事業）」の採択事業として「パパママ応援企業の情報発信」の取組があったが、民間だけの力では、良い取組でも続かないことがある。
- 地域・区民としてできることがあるのではと感じた。

＜課題や改善点について＞

- 困難な課題を抱えるケースは、行政が対応することになるが、人手が足りないのが現状だ。
- 「子ども食堂」などを行っている団体への支援を充実できないか。
- 取組を進めるためには、行政と民間との連携と役割分担が必要だ。

【Ⅳ－② 保健・福祉・子育て支援（障害・高齢・健康・人権）】

（１）障害者支援

- 精神障害に関する相談が増加傾向だが、障害の内容が複雑化心身なのか身心なのか障害の種別がわからない。
- 障害のある方が高齢化している。親が亡くなり一人になる方、逆に親の介護をしなければならない方もいる。
- 民生委員の存在を遠く感じる。身近な相談相手として作業所の職員などがあげられる。
- 老人福祉委員は身近な見守りが可能。ただ、ケアをする対象が高齢者であり、障害のある方は障害の種類によって対応方法も異なるため、対応が難しい。
⇒ 空き家や学生アパートを活用して、障害のある方向けのグループホームを作れないか。

（２）高齢者福祉

- 高齢者の居場所づくりが進んでいるので、その数も把握すべきではないか。
- 図書館が高齢者の居場所として機能している。終活や介護予防等に関するコーナーを作った。（指標として「貸出本の種類と冊数」も考えられるのでは）
⇒ 司書のレファレンス力を活用すれば、生活設計（マネープラン）を提供することも可能ではないか。

（３）健康づくり

- 認知症サポーターの参加者が増えてきている。
- 健康づくりサポーター（キャットハンズ）の活動だが、ウォーキングの参加者が一時期増えたが、また減ってきている。高齢者は、体操の方が参加しやすいようだ。

（４）人権

人権を尊重する機運が高まっているように感じるが、「そうは思わない」と感じる区民が 11.2% もいる。いじめ問題やパワハラなどの課題が影響しているのではないか。

（５）子育て

児童館に子どもを預けて迎えに来ない親もいる。子育て世代の支援も必要。

【V 地域のつながりを強める】

＜進ちょく・達成評価について＞

- 刑法犯認知件数や火災発生件数などの安心安全にかかわる項目は、指標の数値は悪くないように思える。
- 指標の数値が良くても、現実の自治会加入率のことを考えると不安で仕方がない。

＜計画推進に向けた課題や改善点について＞

（１）自治会の現状について

- 自治会加入率の低下はもちろんだが、それにとどまらず「おはよう」と言える関係が減っていることも課題である。以前は子どものことは町内中の人知ってくれていた。「ちょっと出かけてきます」と言える関係があった。
- 自治会から脱退する理由は、「役が大変」「加入のメリットが感じられない」などが考えられる。
- 高齢者（一定の年齢以上の人）は、役職を免除するような対策もしているが、それでも脱退する人が多い。自治会が維持できなくて解散するところも出てきた。
- １年で交代する自治会・町内会の役職と違い、自治連合会の役員は、何年も継続して（会員の）お世話をする側となる。そのために担い手が見つかりにくく、高齢化が進んでいる。
- おやじの会の人たちには、ぜひ福祉分野にも関わっていただきたい。

（２）地域のつながりを維持する工夫

- 「見守り隊」で小学生の時から挨拶をしてくれる子は、中学生になってからも挨拶してくれる。
- 鏡山学区では、学区ボランティアセンターが日常的にご家庭の困りごとに対処しているが、相談を聞く窓口を民生委員や老人福祉委員に任せっぱなしにせず、月１回のふれあい広場や町内会ルートなど、複数の相談窓口を用意している。
- 宇治市の炭山は、大きな水害に見舞われたが、それに対処した経験によって地域の声掛けが進んだ。「タイミングを逃さない」ことが大切。
- 火災報知器の設置が義務化された際、一斉に設置したものが、電池切れや機械の故障などへの対応が必要になっている。その機会を捉えて、地域と高齢者世帯の関係づくりを進めてはどうか。
- 「やましな GOGO カフェ」には若い世代が参加しているが、自治会をテーマに話し合ってもらってはどうか。